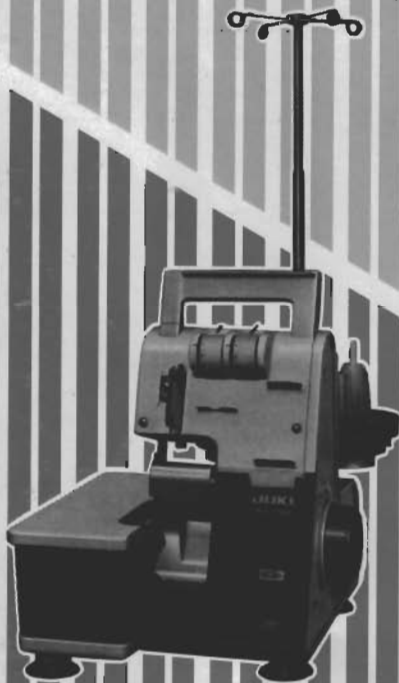


オーバーロックミシン

使用説明書

1本針3本糸 **MO-103型**

JUKI



お買い上げ誠にありがとうございます。

このロックミシンMO-103型(1本針3本糸)は、ローン、ジョーゼット、トリコット、ウールなどの薄物から、木綿、ジャージー、デニム、等の普通地、厚地まであらゆる布地に対してすぐれた機能を発揮する縁かがり(裁ち目かがり)ミシンです。

このジューキ小型ロックミシンのすぐれた機能を充分にご活用いただきますためには、正しい使い方が基本になります。どうぞ、この使用説明書をよくご覧になって、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

万一、ロックミシンについてご不明な点、ご不審な点がございましたら、お買い上げ販売店へご遠慮なくお申しつけください。アフターサービスは万全をつくり、ご奉仕申し上げます。

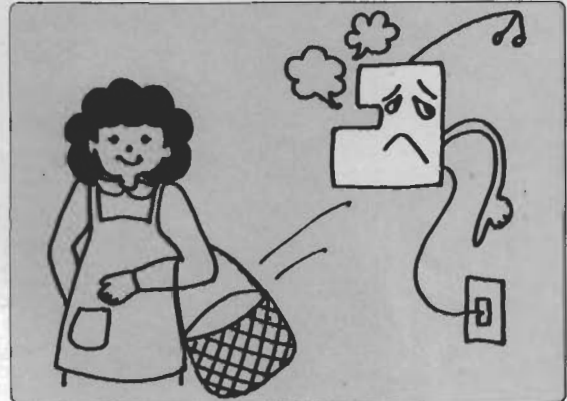
特に注意していただきたいこと.....	1
主な各部の名称.....	2
糸立て装置の使い方.....	3
ロック用糸の場合.....	3
家庭用糸ゴマの場合.....	3
糸(上、下ルーバー糸・針糸)のかけ方.....	4.5
動かし方.....	6
コントローラーのとりつけ方.....	6
コントローラーの使い方.....	6
使い方.....	7
ためし縫い.....	7
縫い終った布地のとり出し方.....	7
縫製中に糸が切れたとき.....	7
糸調子のとり方.....	8
布地・ミシン糸・針の関係とつまみの合わせ方.....	9
縫い目の長さ調節方法.....	10
押え圧について.....	10
針のとりはずし・とりつけ方.....	11
針板を外した時の取りつけ方.....	12
メス(別売品)の交換・注油・ランプ(別売品)の取りつけ方.....	13
サービスをお申しつけになる前に.....	13
梱包と付属品の明細・仕様表.....	14
いろいろな縫い方.....	15
利用のし方・巻き縫いアタッチメント(別売品).....	16

正しくご使用いただくために、次の注意事項は必ずお守りください。

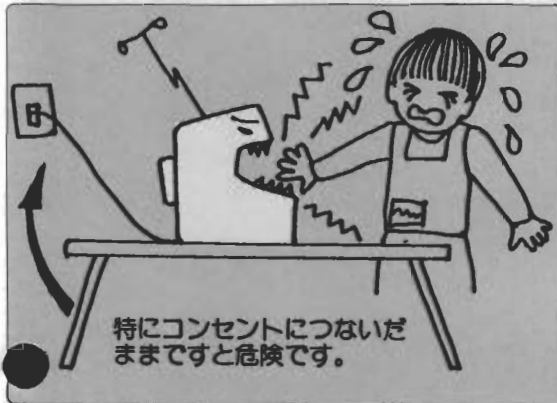
コントローラーの上に物を
乗せないでください。



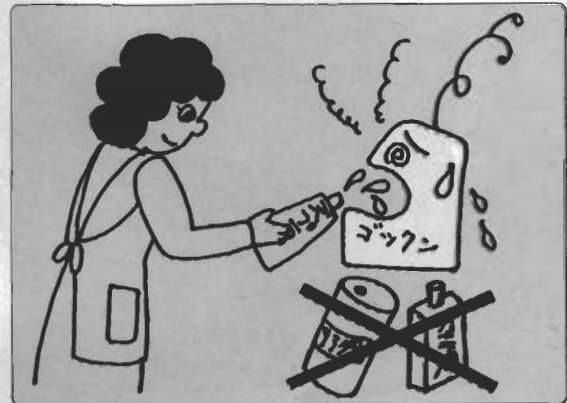
使用後は安全のため、必ずコンセントから
プラグを抜いてください。



小さなお子様のいるご家庭では、手の届く
ところに置かないでください。



ミネラル油以外の油は
使用しないでください。



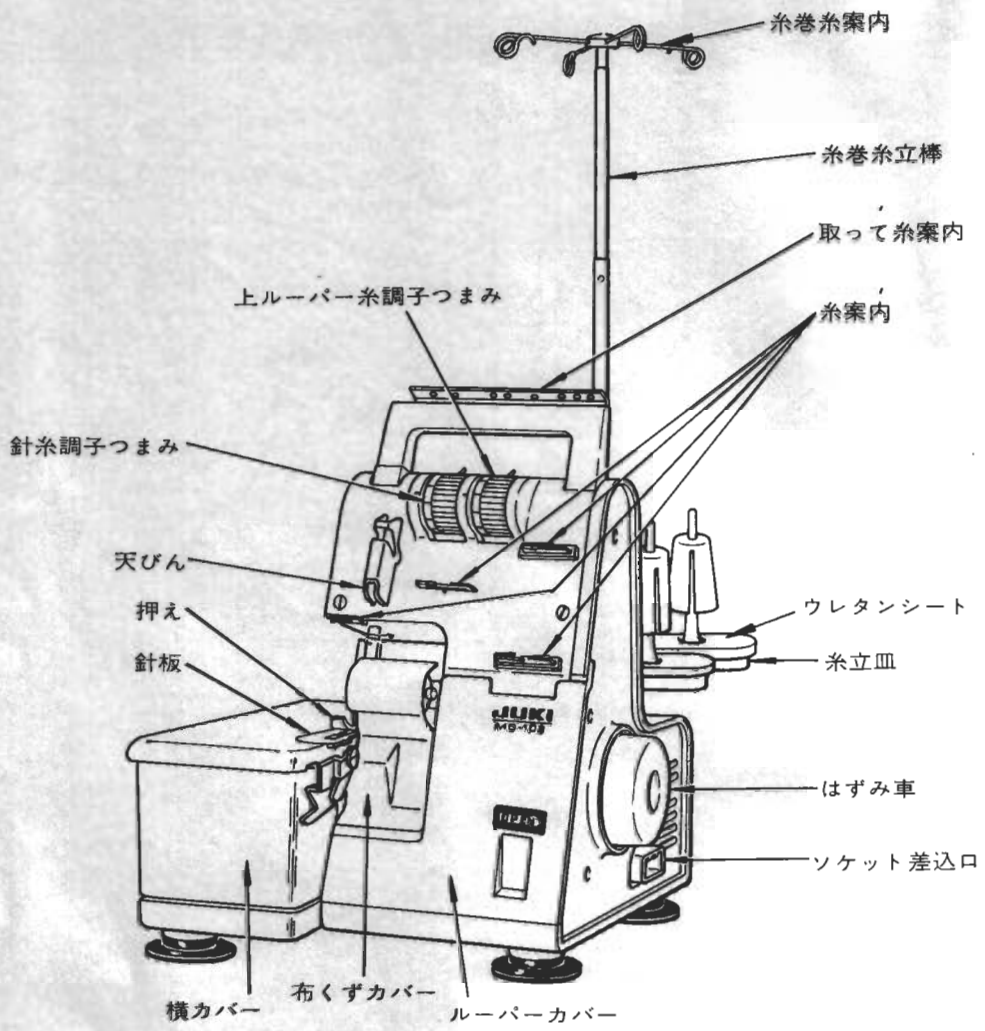
直射日光が当たる場所、湿度が非常に高い
場所には長く置かないでください。



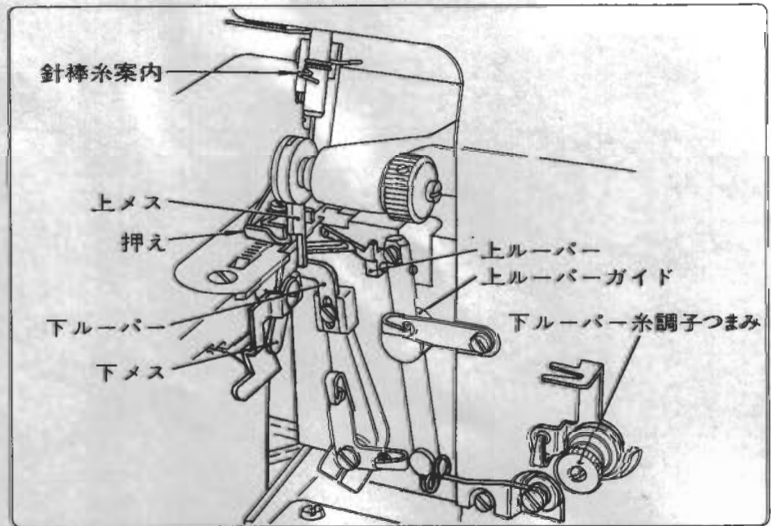
シンナーやその他の溶剤では
拭かないでください。



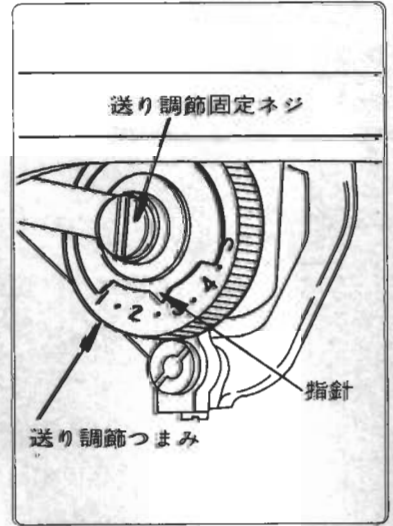
特に注意していただきたいこと

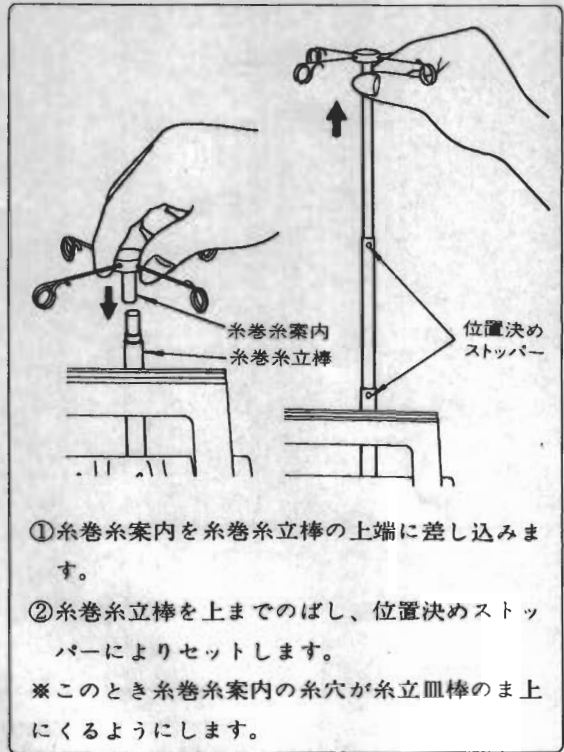
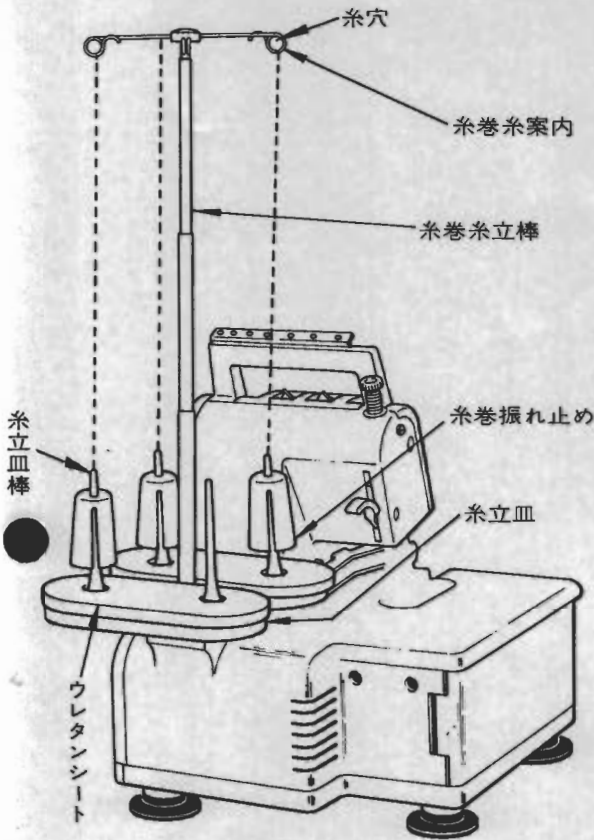


ルーバーカバーを開いたところ



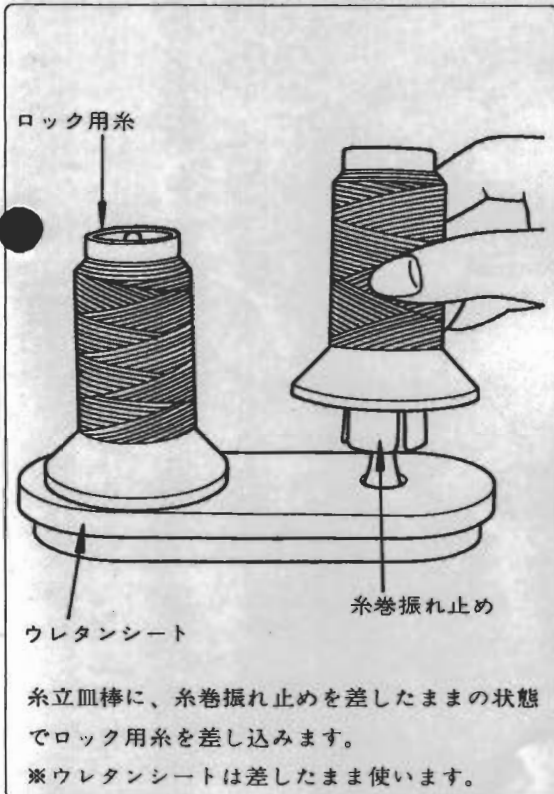
横カバーを開いたところ





- ①糸巻糸案内を糸巻糸立棒の上端に差し込みます。
 - ②糸巻糸立棒を上までのばし、位置決めストッパーによりセットします。
- ※このとき糸巻糸案内の糸穴が糸立皿棒のま上にくるようにします。

ロック用糸の場合 (このミシンにはロック用糸の使用をおすすめします。)



糸立皿棒に、糸巻振れ止めを差したままの状態
でロック用糸を差し込みます。
※ウレタンシートは差したまま使います。

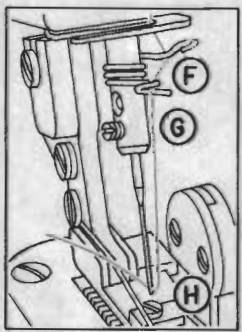
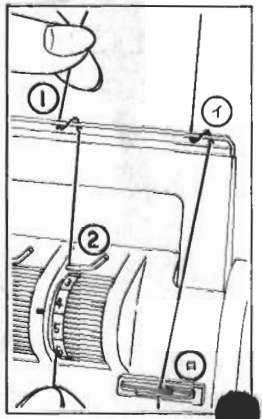
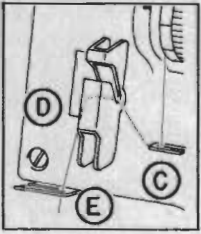
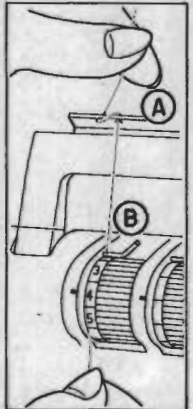
家庭用糸ゴマの場合



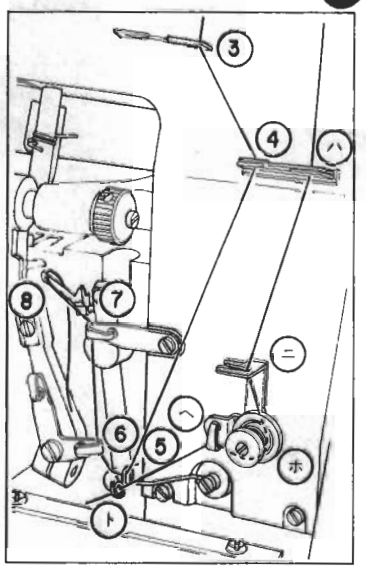
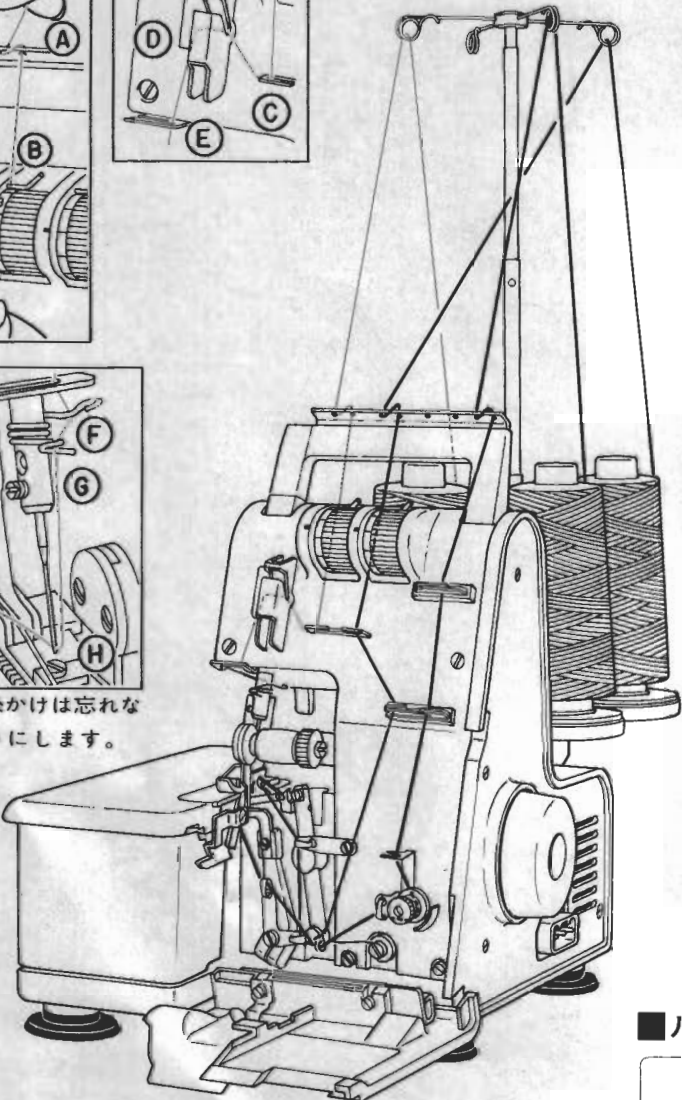
- ①糸立皿棒から糸巻振れ止めを抜きとります。
 - ②糸ゴマを糸立皿棒に差し込みます。
 - ③付属品の糸巻当て座を糸立皿棒に差し込みます。
- ※糸ゴマは切り込み部から糸立皿棒に入れます。

糸(上、下ルーパー糸・針糸)のかけ方

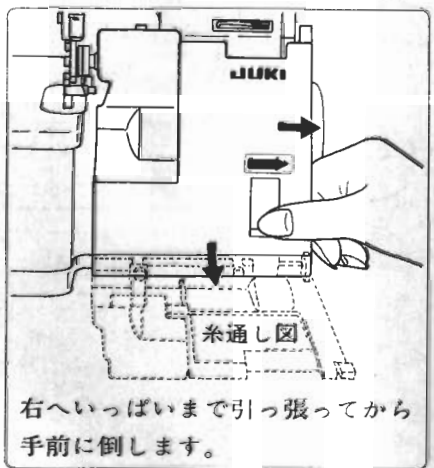
糸のかけ方をまちがえますと、縫い目が乱れたり糸切れすることがありますので、正しく通します。
 なお、付属の糸掛け図、またはルーパーカバーを開けますと、糸通し図がありますので参考にします。



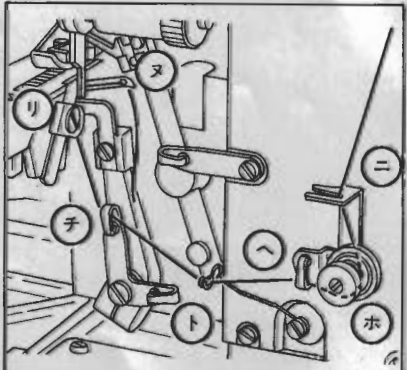
※Fの糸かけは忘れな
 いようにします。



■ルーパーカバーの開け方



右へいっぱいまで引っ張ってから
 手前に倒します。

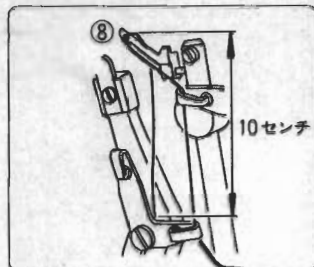


※①と②の糸かけは5ページ参照

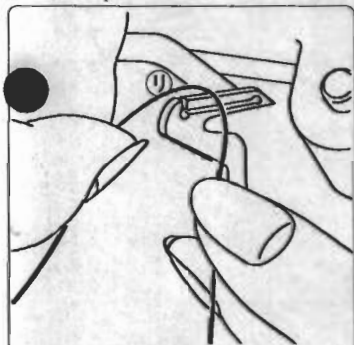
糸かけ順序(左ページを参照しながら糸をかけます。)

①最初に上ルーバー糸(青色)を①~⑧の番号順にかけます。
 通し終わりましたら糸を糸穴より10センチ程度引き出しておきます。(右図)

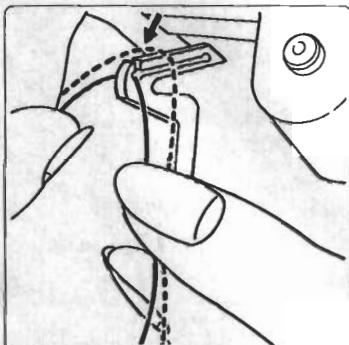
※⑧のルーバー穴を通すときは、付属のピンセットを使いますと簡単に通せます。



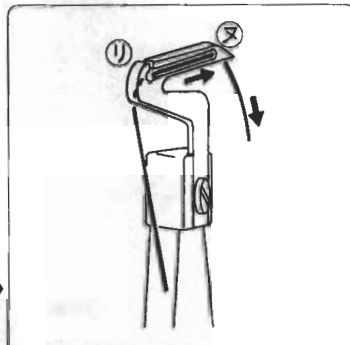
②つぎに下ルーバー糸(赤色)を①~②のイロハ順にかけます。
 下ルーバーの①~②の糸をかける順序は下図の通りです。



①の1 はずみ車を回し、下ルーバーを最左端の位置にし、両手で持ち(糸端は右手)下ルーバーの上部に糸をまたがせます。

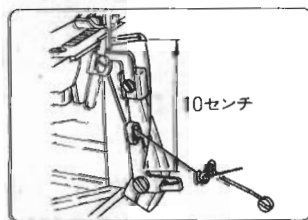


①の2 次に糸をルーバーの上部にそって滑らし、溝に入れます。

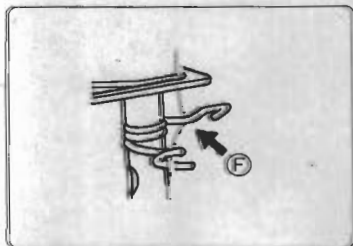


②糸が溝に入ったら、はずみ車を回し、下ルーバーを最右端の位置にし、下ルーバーの糸穴に付属のピンセットを使って糸を通します。

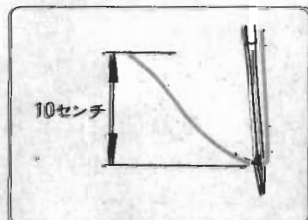
通し終わりましたら糸を糸穴より10センチ程度引き出しておきます。(右図)



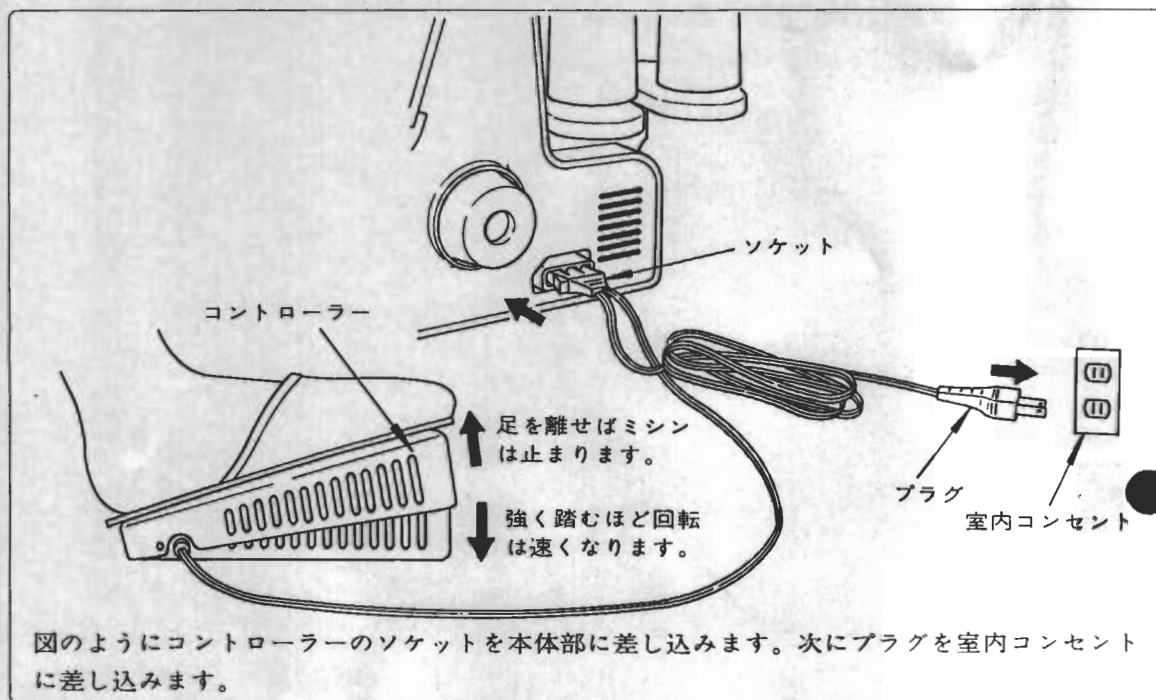
③最後に針糸(黄色)をA~HのABC順にかけます。
 ⑤の糸かけは忘れやすいので注意しましょう。



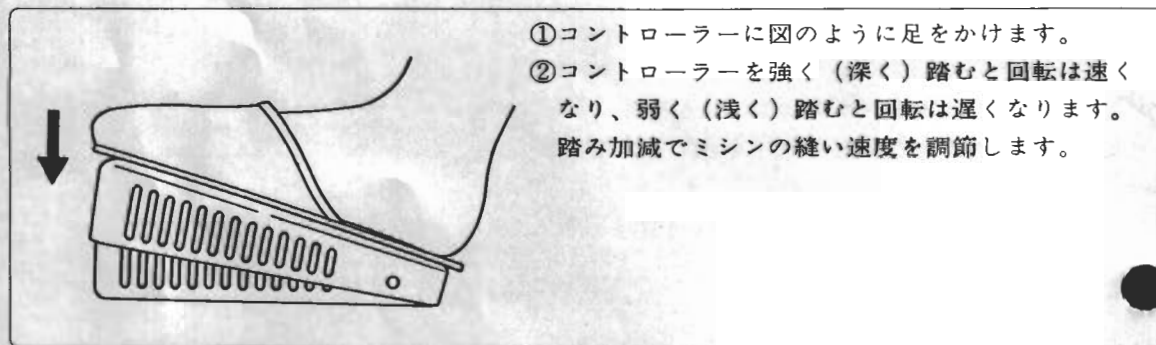
通し終わりましたら糸を針穴より10センチ程度引き出しておきます。



コントローラーのとりつけ方



コントローラーの使い方



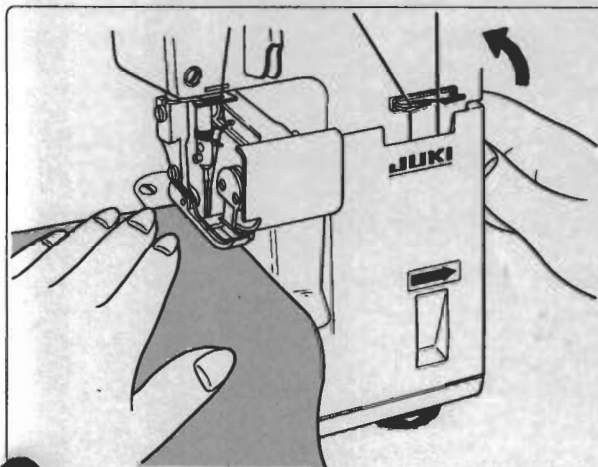
モーターご使用上の注意

- このミシンの縫い速度は毎分最大1500針です。
- モーターの回転は家庭用の本縫いミシンのモーターと違い逆方向に回転します。
- ミシンを連続してお使いになりますとモーター及びコントローラーが少し暖かくなりますが、性能上では差しつかえありません。
- モーターの運転中、はずみ車と反対側のモーターブラケットの通風孔から小さな火花が見えますが、これはカーボンブラシと整流子との間で整流作用が行われる火花です。そのまま安心してお使いください。

ミシンをお使いにならない時

- プラグを必ず室内コンセントから外してください。この時プラグを必ず手で持って外してください。
- コントローラーの上に物をのせないでください。

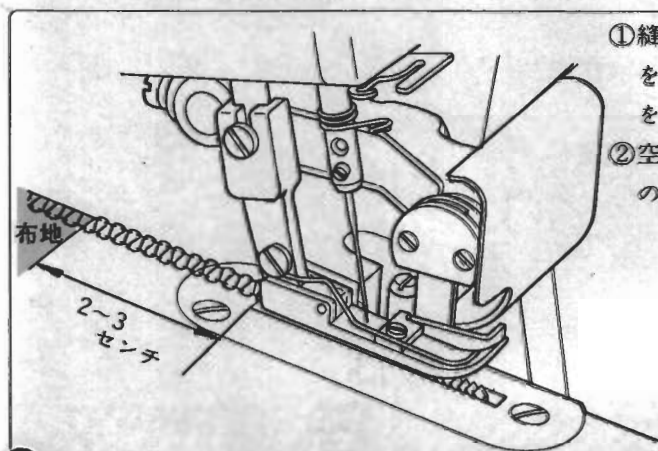
ためし縫い——糸通しが終わりましたら、ためし縫いをします。



縫い始め…初めて糸を通した時や、裁縫中に糸が切れて、糸を通した時は、つぎの方法で縫い始めます。

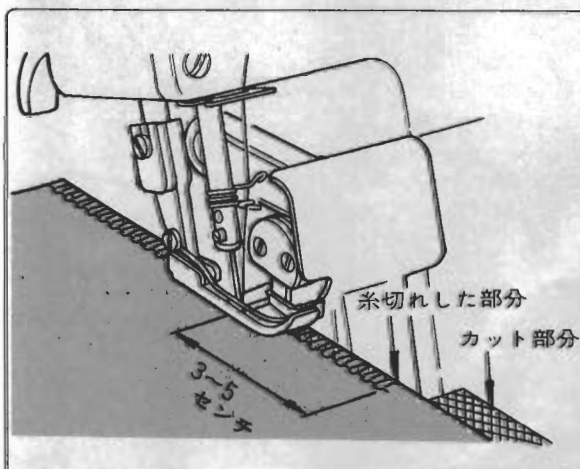
- ①ためし布を、押えの下へいっぱいに入れます。(針の落ちる部分に布があるようにします。)
- ②押えが、さがっていることを確認します。
- ③つぎに、右手ではずみ車を矢印方向に2～3回まわし、糸のからみ具合をみてから縫い始めます。

縫い終わった布地のとり出し方



- ①縫い終りは図のように布地の端から空縫いを2～3センチ長く出して、その空縫い糸をハサミで切ります。
- ②空縫い糸が出ましたら、次に縫う場合はそのまま縫います。

縫製中に糸が切れたとき

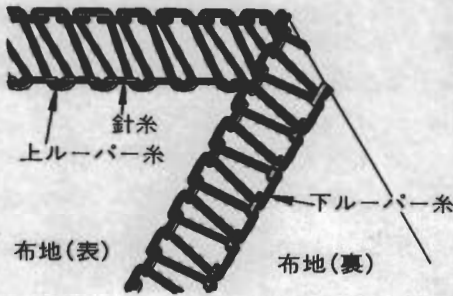


- ①糸が切れた場合、布地を一度ミシンより取り外し、糸をはじめて通したときと同じ状態に通しなおします。
 ※縫製中に下ルーバー糸が切れて、通し直しをするときは針糸を針穴からぬいて行なってください。
 ※上ルーバー糸が切れたときは、はずみ車をまわして上ルーバーがいちばん下にある状態にしてから、糸を通してください。
- ②布地の糸切れしたところより3～5センチ位前の部分を押えの下に入れ、前に縫った縫い目の上から縫います。

このミシンは布地の種類や糸の太さが変化しても、ほとんど調整しなくても縫えるように設計されております。

極薄地や極厚地を縫う場合、または縫い目のバランスがくずれた場合には下記のように調整します。

正しい縫い目



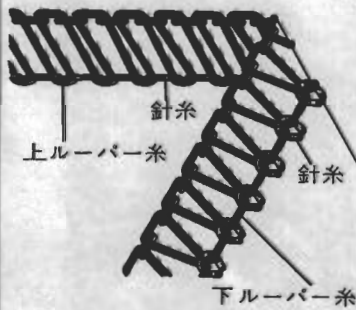
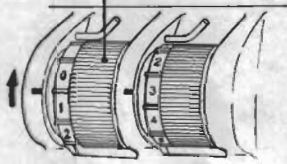
糸調子の目安

	針糸目盛	上ルーバー糸目盛
薄地	2~3	2~3
普通地	3~4	2~3
厚地	4~5	2~3

※この表の目安はロック用ポリエステルスパン糸(#80~90)のものです

針糸が弱い場合

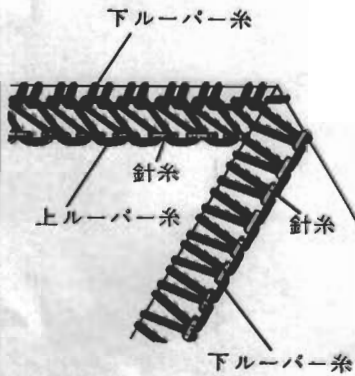
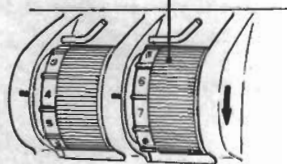
針糸調子つまみ



矢印の方向に目盛数字を大きくします。

上ルーバー糸が強い場合

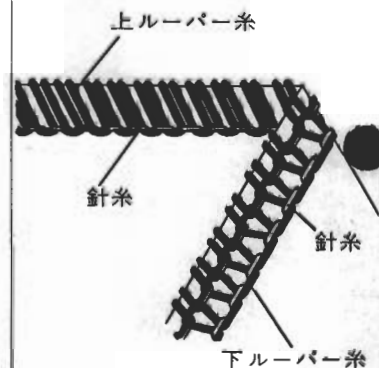
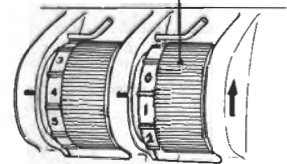
上ルーバー糸調子つまみ



矢印の方向に目盛数字を小さくします。

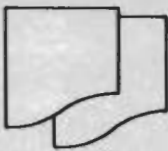

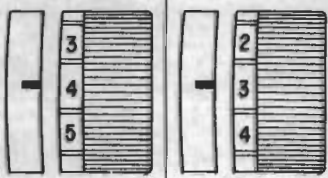
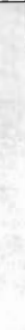
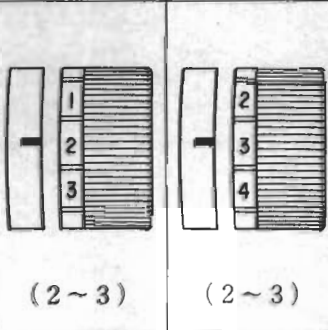
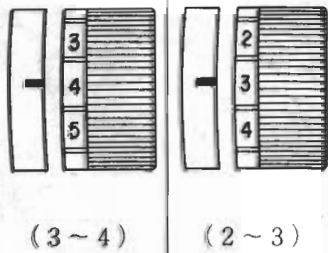

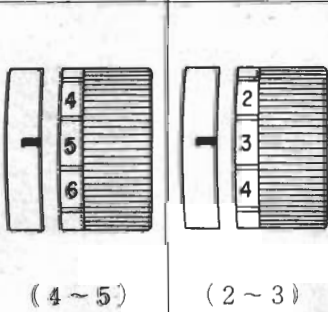
上ルーバー糸が弱い場合

上ルーバー糸調子つまみ



矢印の方向に目盛数字を大きくします。

※下ルーバー糸の調整は全ての布地に合う強さにあわせてありますので調整する必要はありません。

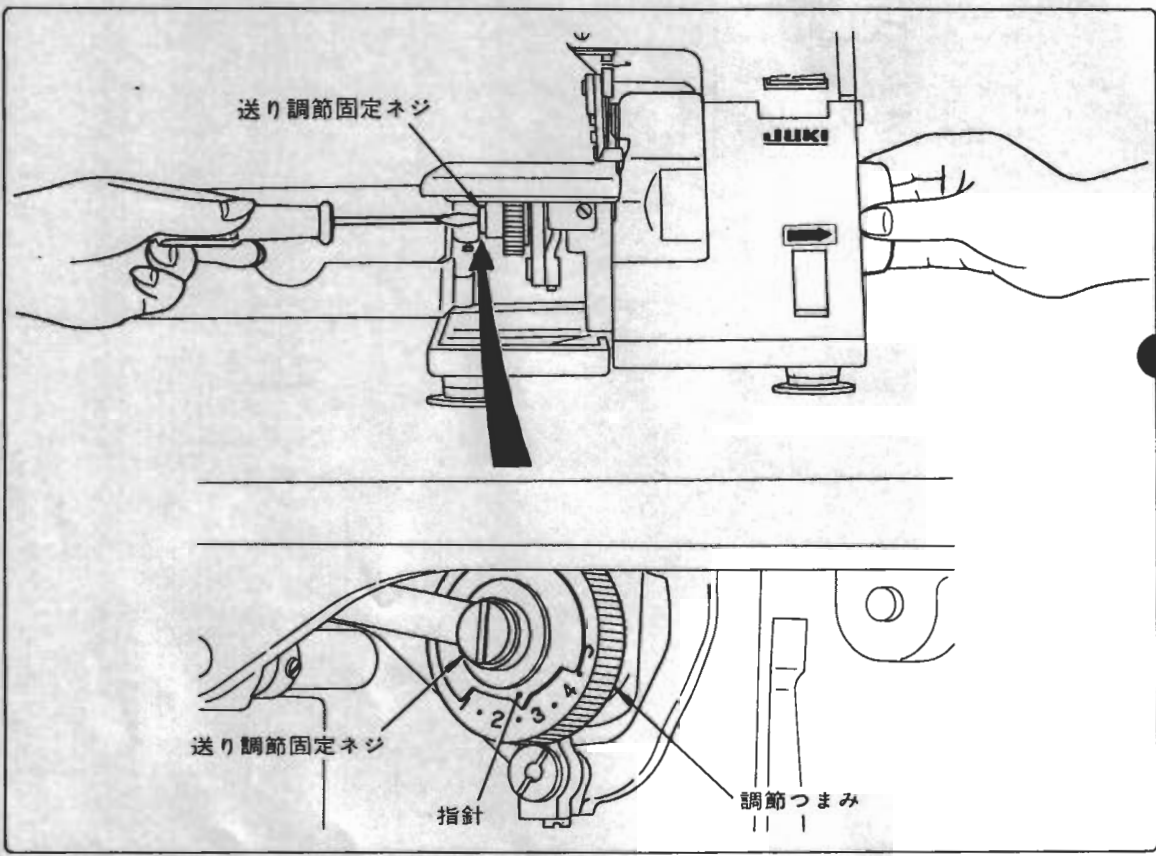
	布地・ミシン糸・針の関係			糸調子の目安	
	布地	ミシン糸		針糸目盛	上ルーバー糸目盛
		ロック用糸	家庭用糸ゴマ		
薄地	ローン ジョーゼット クレープデシン オーガンジー ボイル 楊柳	スパン糸 (ポリエステル) #90 フィラメント糸 #90	化繊糸 #90~#100 カタン糸 #80~#100 絹糸#100		 (2~3)
普通地	ブロード・サージ ギンガム・サッカー ポプリン・シャンタン ベルベット・モスリン コーデュロイ・ポーラ ジャージー	スパン糸 (ポリエステル) #90 フィラメント糸 #90 綿糸#80	化繊糸 #60~#90 カタン糸 #60~#80 絹糸#50	BL×1 11番 (DB×1 11番)	 (3~4)
厚地	デニム ツイード カツラギ ペロア	スパン糸 (ポリエステル) #90 フィラメント糸 #90 綿糸#60	化繊糸#60 カタン糸 #60~#80 絹糸#50		 (4~5)

※ナイロンまたはテトロンスムース地にはDB×1 KN 10番が最適です。

※#印は糸の太さを示す番手の意味です。

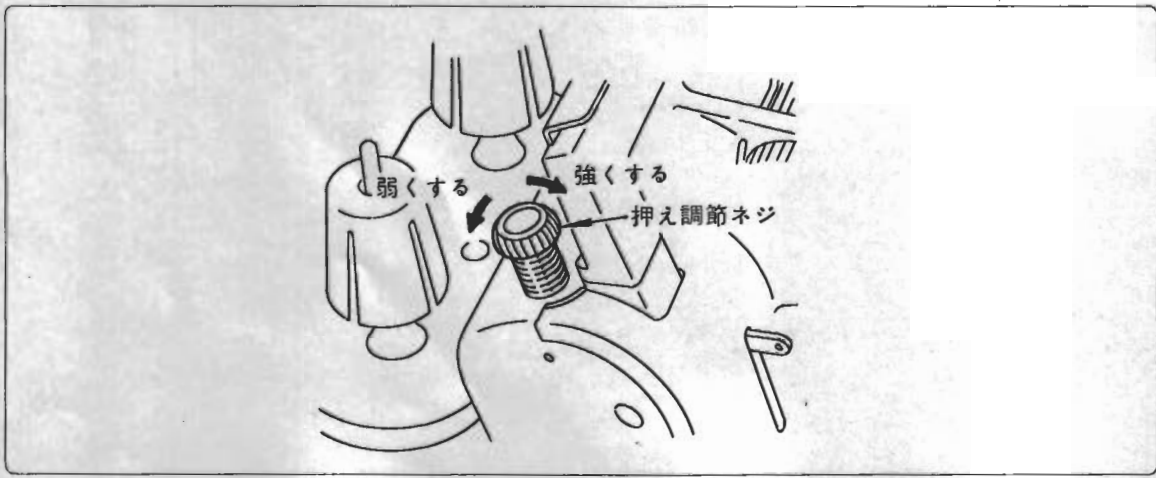
縫い目の長さ調節方法

- ①横カバーを開き、右手ではずみ車を押え、付属品のドライバーで送り調節固定ネジをゆるめます。
- ②つぎにつまみを回して目盛を指針に合わせます。
- ③調節が終わったら、送り調節固定ネジをドライバーで強くしめます。

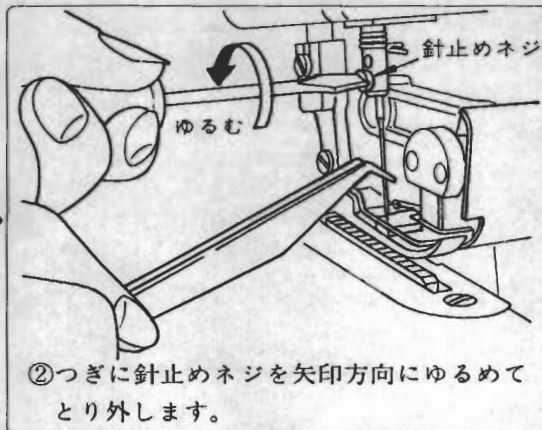
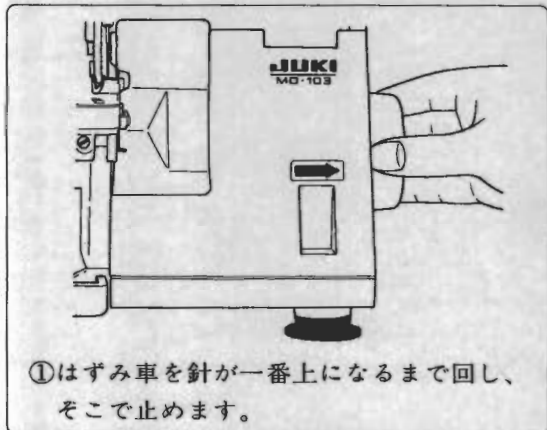


押え圧について

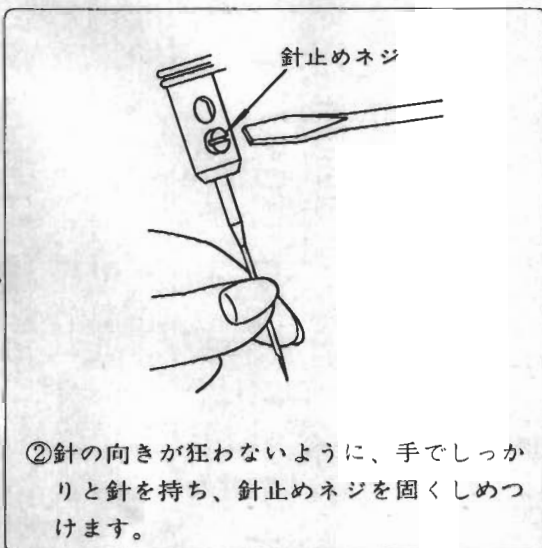
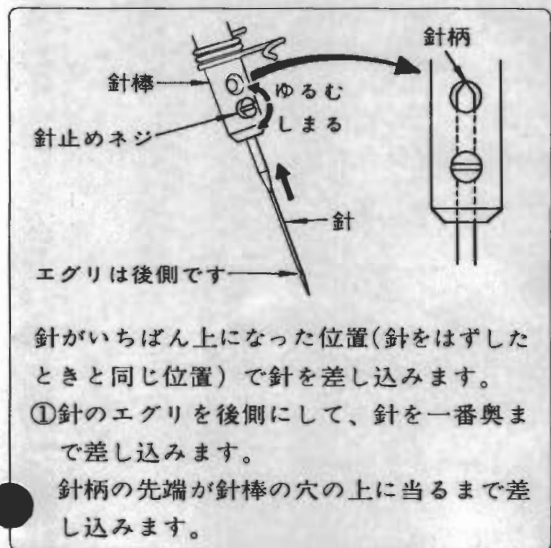
このミシンはすでに押え圧力を調整してありますので、薄地(トリコット、デシン)、厚地による調節は特に必要ありません。



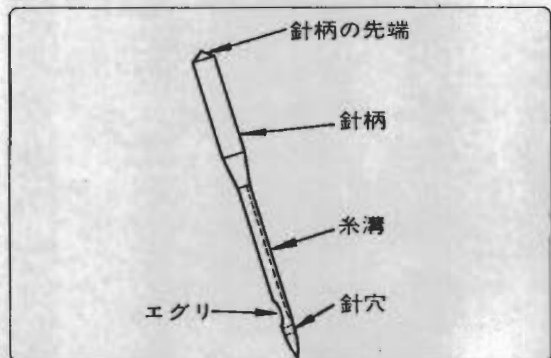
針のとりはずし方



針のとりつけ方



針各部の名称

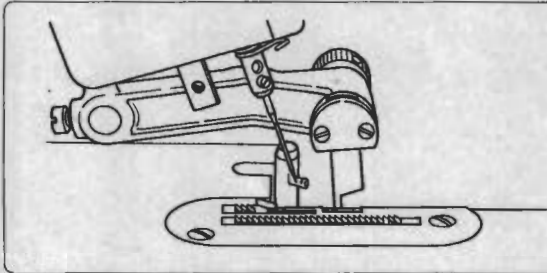
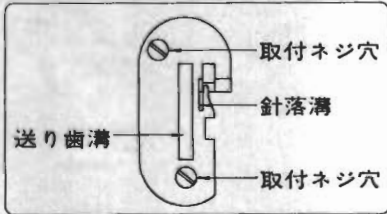


針の種類と選び方

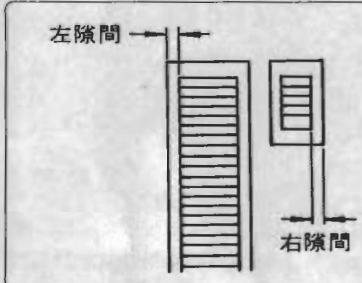
このミシンの針はBL×1またはDB×1 11番を使用します。
※厚地(デニム地など)を縫う場合でも11番で十分です。
※ナイロン、またはテトロンのスームス地(ニット地)を縫う場合はBL×1、DB×1、11番を使用しても縫えますが、DB×1KN 10番(ニット針)を使用しますと、さらにきれいな縫い目が得られます。

巻き縫いをするため針板を外した時には下記のように取りつけます。〔巻き縫いアタッチメント(別売品)〕

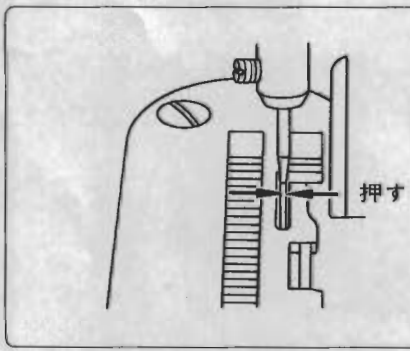
針板名称



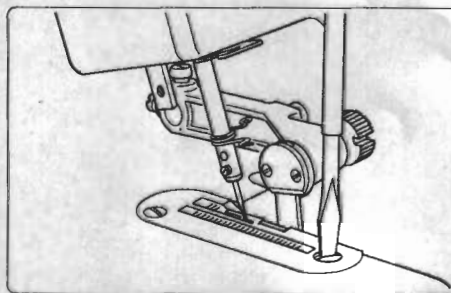
① 押えが外れた状態で、針棒を一番上がった位置にします。



② 針板の送り歯溝に送り歯を合せてはめ込みます。送り歯と針板の送り歯溝との左右隙間を同じ位にして、針板止めネジを軽くしめます。



③ はずみ車を回し針を最下点の仕置で止めます。そのときに針と針棒溝の左右の壁が接触していないことを確認します。確認方法は左右に押し、針が動けば大丈夫です。
※もし針が動かない場合は針板止めネジをゆるめ針板をずらして下さい。そのとき再びはずみ車を回し、針板の送り溝と送り歯が接触していないことを確認します。



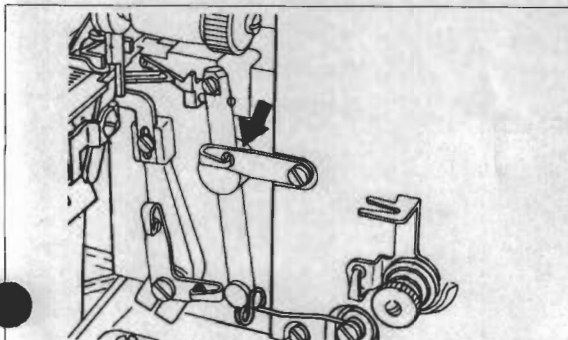
④ 確認が終わりましたら、針板止めネジをしっかりしめつけます。

上メス・下メスの交換(別売品)

下メスは切れ味がにぶくなったら交換します。上メス(可動メス)は超硬合金という特殊な材料を使用していますので普通は交換の必要はありませんが、刃先がかけたときは交換します。

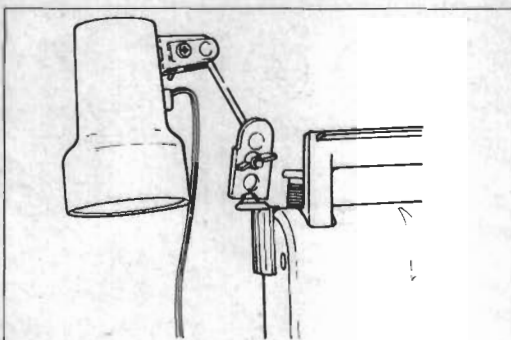
メスを交換するときは、ご購入いただきました販売店にご相談ください。

注油のし方



お使いになる前に必ず矢印の箇所に適量の注油をしてください。1回の注油は1~2滴にしてください。

ランプの取り付け方(別売品)



ランプをお使いになる場合は、ミシンランプを図のようにとりつけてください。

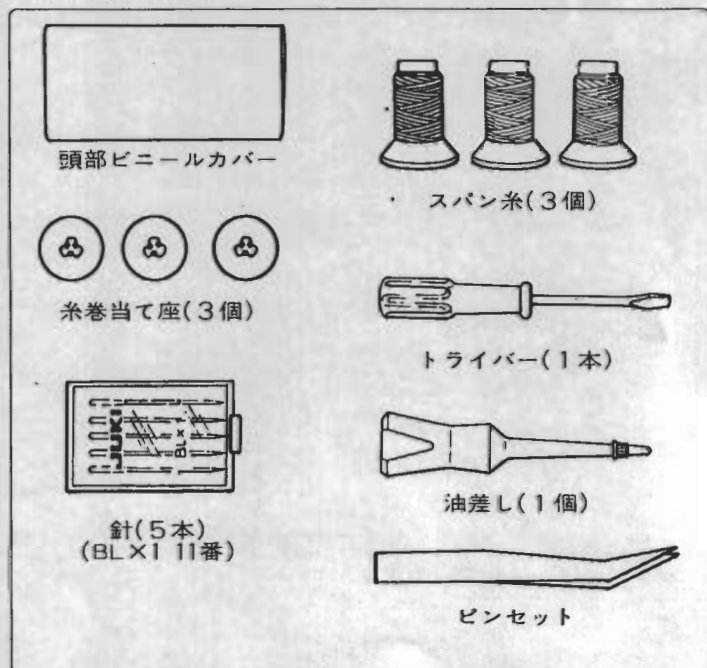
サービスをお申しつけになる前に

次のような場合は故障ではありません。サービスをお申しつけになる前にもう一度確認してください。

現象	原因(理由)	処置方法	ページ
布地を送らない場合	①押えの圧力が弱すぎるとき	押え調節ネジを右へ回し、押え圧を強くします。	10
針が折れる場合	①針が曲っていたり、針先がつぶれているとき	新しい針にとりかえます。	11
	②針のとりつけ方が悪いとき	正しくとりつけます。	11
	③布地を無理にひっぱったとき	縫っているときは布端に手をそえるだけにします。	
糸が切れる場合	①糸のかけ方がまちがっているとき	正しくかけなおします。	4・5
	②糸調子が強すぎるとき	糸調子を弱くします。	8
	③針のとりつけ方が悪いとき	正しくとりつけます。	11
目とびがする場合	①針が曲っていたり、針先がつぶれているとき	新しい針にとりかえます。	11
	②針のとりつけ方が不完全なとき	正しくとりつけます。	11
	③糸のかけ方がまちがっているとき	正しくかけなおします。	4・5
縫い目の調子が悪い場合	①糸調子が不完全なとき	正しい糸調子になおします。	8
縫い物にしわがよる場合	①針糸調子が強すぎるとき	針糸調子つまみを目盛の小さい方へ合わせます。	8
	②糸のかけ方がまちがっていたり、必要以外の場所に糸がからんでいるとき	正しくかけなおします。	4・5
モーターの故障	①雑音がする	}カーボンブラシを交換します。 注)カーボンブラシの交換はお買い上げの販売店に依頼してください。	
	②モーターが全然回らない		
	③火花が異常に大きい		

上記の方法でも直らないときは、お買い上げ店にご相談ください。

付属品の明細



梱包明細

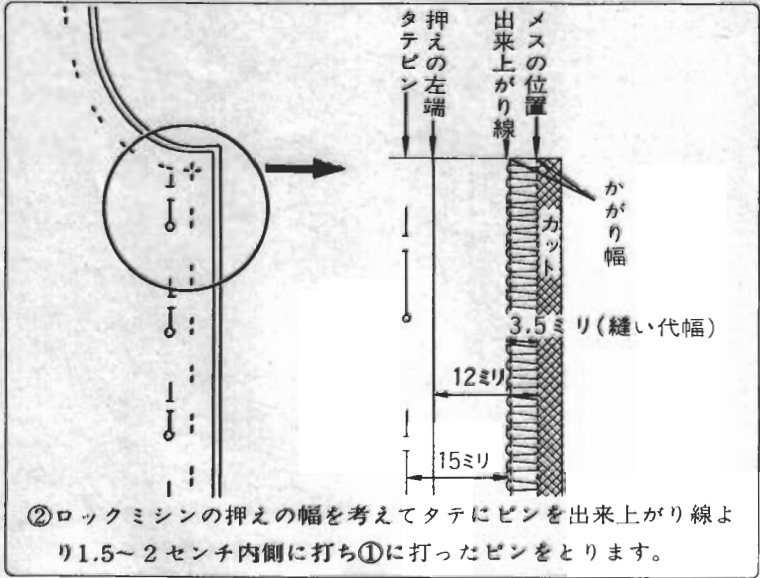
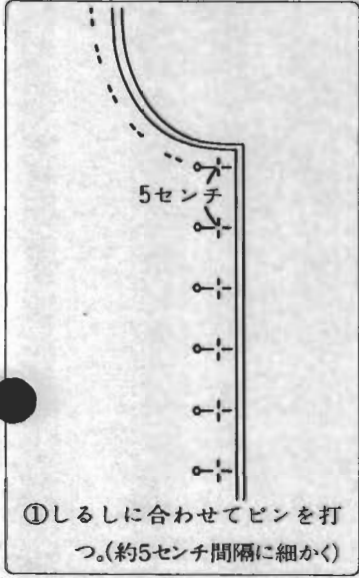
1. ミシン (モーター付き) 1セット
2. コントローラー 1式
3. 使用説明書 1冊
4. 糸掛け図 1枚
5. 付属品袋 1個
6. 糸巻糸案内 1個
7. 検査合格証 1枚
8. 保証書 1枚

MO-103型の仕様表

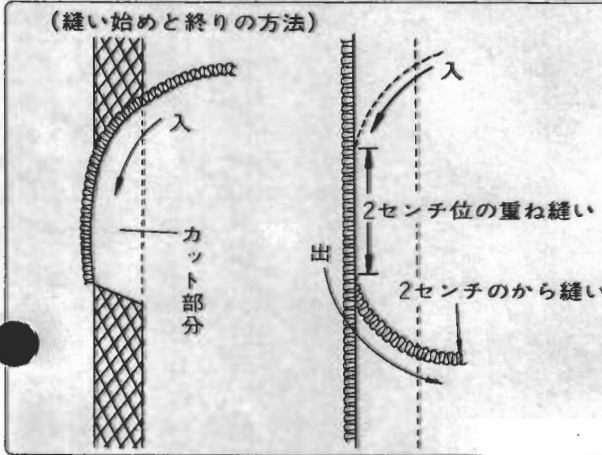
項 目	仕 様
使用糸数	3本
使用針	BL×1・DB×1 11番 (ニットの場合、DB×1NK 10番が最適です。)
かがり幅	3.5ミリ
縫い目の長さ(送り量)	1～5ミリ(標準送り量2.5ミリ)
押え上げ量	4.5ミリ
縫い速度	最大1500針/分
ミシンの大きさ	巾235ミリ×奥行263ミリ×高さ280ミリ
ミシンの重量	9.0kg

かがり縫いと合わせ縫い(地縫い)を兼ねる方法

かがり縫いと合わせ縫い(地縫い)を兼ねる場合、しつけ縫いのかわりにタテピン打ちをしてから、縫いますと手間がかかりません



スカートの裾の始末

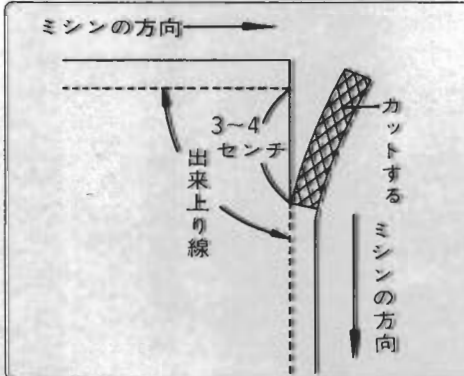


タイトスカート等のいせの分量の少ないヘムは、ヘム幅を揃えてかがります。

フレアスカート等のいせの分量の多いものは、直線縫いで針目を大きくして縫いこめて、ヘムを整えてからかがります。

縫う方法は、押えを上げて、布を斜めにおき、押えをおろしてカーブを描いてかがります。縫い終りは、2センチ位の重ね縫いをし、2センチ位のから縫いを残して糸を切ります。から縫いはかがりがほつれないようにするためです。このから縫いはヘムの中に入れて裾まつりをします。

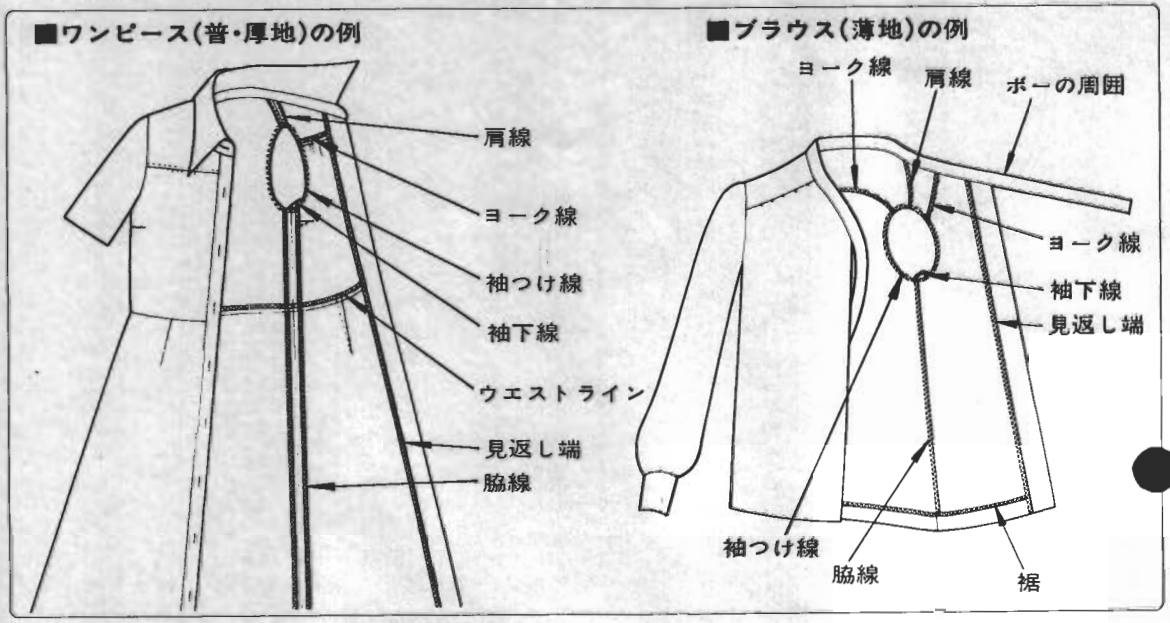
角をかがる方法



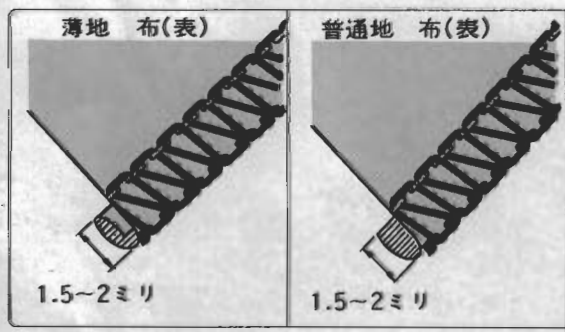
ロックミシンは、針とメスの間があいているために、あらかじめ角の縫い代をカットしてからかがります。

- ①布の端まで縫い進んだら針と押えを上げ、針板のツメにからんだ糸の輪をくずさないように目打ちで後に抜きます。
- ②次に布の方向を変え、押えをおろして縫い始めます。

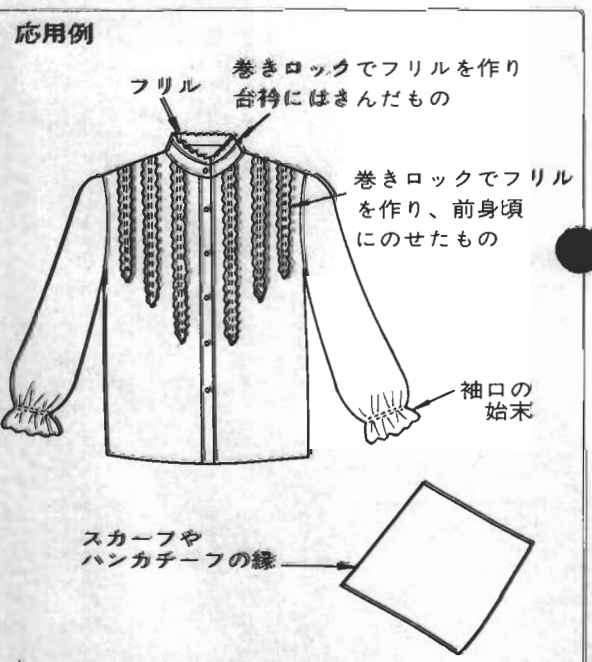
利用の仕方……このロックミシンは下図のようなところに利用します。



巻き縫いアタッチメント(別売品)



※巻き縫いアタッチメントの詳しい使い方は、添付の説明書をご覧ください。
 ※お買い求めの際は、このロックミシンをお買いあげの販売店にご相談ください。



巻き縫い用針板と押えを交換すると、極薄地の裾や袖口、スカーフやハンカチーフの縁など、布端を巻き込みながら細く美しいかがりができます。

JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら
下記、営業所へお問い合わせください。

東北特販営業所.....	〒980	仙台市錦町1-1-2	☎022(261)7081
東京特販営業所.....	〒160	東京都新宿区大久保2-5-22	☎03(205)1185
大阪特販営業所.....	〒530	大阪市北区曾根崎新地2-6-21	☎06(348)1351
広島特販営業所.....	〒732	広島市中区富士見町4-22	☎082(248)7711
九州特販営業所.....	〒812	福岡市博多区博多駅東1-9-5	☎092(474)4947

JUKI株式会社

〒182 東京都調布市国領町8-2-1
☎03-480-5655